

自然を語る会（読書会） 2019年5月18（土）10～12：00
於、東京ボランティア市民活動センター
担当：小川真理子（参加10名）

畠山重篤著 『鉄は魔法つかい—命と地球をはぐくむ「鉄」物語』

- 第1章 魔法つかいが森に？
- 第2章 海に鉄をまく
- 第3章 漁師、血液学の教室へ

「森は海の恋人」は言わずもがな、畠山重篤さんを語る時のキャッチフレーズ。

畠山重篤さんは三陸、気仙沼の有名なカキ養殖家。赤潮などによる海の劣化に直面、荒れた森（流域）の植林を平成元年から約30年間継続中です。漁師の経験、知識、感に頼るだけでなく、北海道大学水産学部をはじめ各界の学者、研究者、学生と交流を深めてきました。やがて、科学（生物学、化学、地学等々）により証明された活動は正しく植林でした。畠山さんの実践と人生を語る多数の著書はみな分かりやすく、まだの方は是非ご一読を。数々の受賞歴に加えて植林も全国に波及、講演会も大人気のようです。

やりました。当会は今年10月、著名人（ご本人）をお招きして講演会を開きます。事前に、畠山著作のうち『鉄は魔法つかい』を皆で勉強しようと読書会をスタートしました。是非多くの方にご参加いただき、一緒に楽しみましょう。教科書のごとく、明快で論理的、イラスト（スギヤマカナヨ）も腑によく落ちる。初回ご担当は当会代表小川さんでした。第1章から3章までの要約と補足のデータ等を用意されお話されました。内容が豊かで終了時間がすぐ来てしまいました。

第1章「魔法使いが森に？」 その正体は鉄と腐葉土らしい。豊饒な海は海の森（海藻）と植物プランクトンが豊富なのですが、植物プランクトンが求める（陸に豊富にある）鉄は海には全く足りません。植物プランクトンの必須栄養素は、窒素、リン、鉄です。これらの養分が森から海に至るまでに窒素は硝酸塩に、リンはリン酸塩に、鉄は酸化するので海藻類や植物プランクトンの細胞はどうにも吸収できないのです。魔法使いは、森で落葉広葉樹などから生じる腐葉土中のフルボ酸に働いてもらう。フルボ酸とくっついた鉄がフルボ酸鉄となり、地下水～川～海へと移動しながら、植物プランクトンが必要な窒素、リン、鉄を摂取できるように手助けをするのです。だから腐葉土（植林）命なのです。私は第1章だけで挫折、ほとんど記し残しました。本文をお読みいただくのが、ベストで、しかもはるかに楽しいです。ごめんなさいまし。（文責 岩淵徹郎）